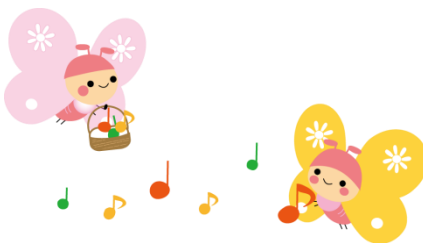


春の本・花の本

おたまじゃくしの101ちゃん【借成社】

(文・絵)かこさとし

101匹の元気なカエルの子供たちは、お母さんと遠足に出かけますが、101ちゃんが行方不明になり、探しに出かけたお母さんは大ピンチに……！



もぐらとずぼん【福音館書店】

(文)エドアルド・ペシチカ

(絵)ズデネック・ミレル (訳)うちだりさこ

お気に入りのズボンを作る為に、みんなで協力して工程を積み重ねていき、最後に完成する喜び。達成感の感じられる絵本です。

びゅんびゅんごまがまわったら【童心社】

(作)宮川ひろ (絵)林明子

かえで小学校に通うこうすけは、使えなくなった運動場をとりもどすため、校長先生とびゅんびゅんごままで対決をすることになってしまいました。竹馬やカラスノエンドウのさやぶえなどさまざまなあそびが登場。工夫しながら思いっきりあそぶ子どもたちの姿が魅力的に描かれています。

はるがきた【主婦の友社】

(文)ジーン・ジオン

(絵)マーガレット・ブロイ・グレアム (訳)こみやゆう

『どろんこハリー』の著者コンビの絵本。なかなか訪れない春にしびれを切らした人々が考えた、あっと驚くこととは？春の訪れの嬉しさと暖かさ、力がわいてくるさまが描かれ、ほんわかした気持ちになります。

のはらクラブのこどもたち【理論社】

(作)たかどのほうこ

のはらおばさんが、子どもたちをあつめて、野原をさんぽ。

実は動物たちが……。どんな草花が見つかるかな？野草となかよくなれる、ゆかいなお話。



根っこのこどもたち目をさます【童話館出版】

(絵)ジビレ・フォン・オルファース

(文)ヘレン・ディーン・フィッシュ (訳編)いしいももこ

春がゆっくり近づいてきた頃、ぐっすり眠っていた根っこの子供達を、土のお母さんが起こして歩いていました。さあ、起きなさい。春が来ますよ。

